

総合計画体系	政策名	IV ふるさとを愛し豊かな心を育む教育と文化のまちづくり《教育・文化》	施策主管課	社会教育課
			施策統括課長	小川 浩
	施策名	25 青少年健全育成の推進	関係課	地域振興課,総務課(警察窓口),健康福祉総務課,子育て支援課,健康推進課,学校教育課

1. 施策の目的と指標

目的	①対象(誰、何を対象としているのか)	対象指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
		市民 (市内の青少年(就学後18歳未満)、その保護者、地域)	A 人口			人	実績	42,428	41,917	41,159		
目的	②意図(どのような状態にするのか)	成果指標		単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度	
		A 補導人数(雲南圏域)	人			実績	77	40	52			
		B 1 家庭で子どもと話をしている保護者の割合	%			実績	81.9	88.7	88.8			
		C 2 青少年の育成活動に参加している市民の割合	%			実績	25.5	25.7	25.2			
成果指標設定の考え方 (成果指標設定の理由)	A) 社会でたくましく生き抜くためには、補導が少ない問題行動の発生件数 B-1) 家庭教育の基盤は家庭での会話であり「会話のないところに家庭教育はない！」ことから、家庭での会話実態を成果指標とした。B-2) 地域で地域の子どもを育てているかどうかは、青少年の育成活動に参加している市民がどの程度いるのか把握する必要があると考えた。(自分の子ども以外を指導育成しているかどうか)											
成果指標の測定企画 (実績値の把握方法)	A) 雲南警察署で把握 B-1) 市小中学校生活実態調査「昨日は、家族と話したり、楽しんだりする時間がありましたか。」 B-2) 市民アンケート調査で把握「あなたは地域で地域の子ども(自分の子ども以外)を育てる活動をしていますか？」											
目標設定とその根拠 (基本計画策定時)	A) タスポの普及や酒類販売の年齢確認などの喫煙、飲酒対策により一定の成果が得られたと考える。このことから、成行値は同程度で推移すると予測する。目標値は、関係機関等と連携をとりつつ、地域自主組織が主体となって、地域ぐるみでの青少年の健全育成に向けた環境づくりを更に進めることが可能と考え、年間40人以下とする。B) 成行値は、これまでの経過から同程度で推移すると予測する。目標値は、既に8割を超えていることから大幅な増加は望めないが、「ノーマディアの日」や「お弁当の日」などを推進することで、H26年に83%まで上昇させること目指す。C) 成行値は、現状程度を予測する。目標値は、現状の4人に1人という値を既に高い水準であると考え、啓発活動を継続し、地域自主組織などの活動の活性化により、H26年には3人に1人の水準を目指す。											

2. 基本事業の目的と指標

基本事業名	対象	意図	成果指標	単位	区分	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
① 交流・体験活動の推進	青少年	たくましく生き抜く力を身につける。	地域の行事等に参加している割合(児童生徒の生活実態調査)	%	実績	64.7	67.0	66.9			
② 相談支援体制の充実	青少年、青少年の保護者	安心して青少年を育むことができる。	雲南市教育相談センター延べ利用者数	件	実績	172	219	348			
③ 家庭の教育力向上	青少年の保護者	家庭の教育力を高める。	家庭で子どもと話をしている保護者の割合	%	実績	81.9	88.7	88.8			
④ 地域の体制強化	青少年の保護者、地域住民	連携して青少年の育成活動に取り組む。	青少年の育成活動に参加している市民の割合	%	実績	25.5	25.7	25.2			
⑤					実績						

3. 施策の役割分担と状況変化

	住民(事業所、地域、団体)の役割	行政(市、県、国)の役割
① 役割分担	<ul style="list-style-type: none"> ●市民総ぐるみで「地域の子どもは、地域で育む」という機運を醸成する。 ●放課後こども教室、登下校時の防犯ボランティアなどにより、青少年が安心して健やかに暮らせる環境づくりに努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ●関係機関・団体と連携し、青少年健全育成の活動を推進、支援する。
② 状況変化	<p>A) 施策を取り巻く状況(対象や根拠法令、社会情勢等)は、今後どのように変化するか?(本年度を見越して)</p> <p>○人口減少や少子高齢化が進み、核家族も増加傾向にある。加えて、経済状態の低迷などにより、家庭のゆとりが失われ、団欒時間の減少や家庭の教育力が低下することが懸念される。○高度情報化社会の進展により、青少年が事件や事故に巻き込まれる危険が増加している。○全国的に少年犯罪の低年齢化の傾向がみられる。</p>	<p>B) この施策に対して、住民(対象者、納税者、関係者)、議会からどんな意見や要望が寄せられているか?</p> <p>○特に意見や要望は受けていない。</p>

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

他団体との比較(近隣市町、県・国の平均と比べた成果水準)	
<input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり高い水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば高い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてほぼ同水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてどちらかと言えば低い水準である。 <input type="checkbox"/> 近隣他市と比べてかなり低い水準である。	<p>背景・要因</p> <p>○補導人数は、松江署管内871件(対青少年人口3.53%)、出雲署管内514件(対青少年人口2.83%)に対し、雲南署管内は52件(対青少年人口0.75%)と低いことから、どちらかと言えば高い水準だと判断した。</p>

平成24年度施策マネジメントシート2(平成23年度実績の評価)

《25 青少年健全育成の推進》

4. 施策の成果水準の分析と背景・要因の考察

時系列での比較(成果水準の推移)	
<input type="checkbox"/> 成果がかなり向上した <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば向上した <input checked="" type="checkbox"/> 成果はほとんど変わらない(横ばい状態) <input type="checkbox"/> 成果がどちらかと言えば低下した <input type="checkbox"/> 成果がかなり低下した	背景・要因 ○補導人数は40人から52人に増加したが、H21年度と比較すると25件減少している。 ○家庭で子どもと話をしている保護者の割合は、概ね横ばいである。 ○青少年の育成活動に参加している市民の割合は、前年と同水準であった。 以上のことから、概ね同水準と判断する。

5. 施策の振り返り評価

施策の目標達成度(前年度の成果指標値に対する実績値の達成度)	
<input type="checkbox"/> 目標値より高い実績だった <input checked="" type="checkbox"/> 目標値どおりの実績値だった <input type="checkbox"/> 目標値より低い実績値だった	背景・要因 ○補導人数はやや達していないが、家庭で子どもと話をしている市民の割合は目標を達しており、地域での青少年育成活動の参加率も概ね目標値どおりとなっている。

基本事業	取り組んだ事務事業の総括(事務事業貢献度評価:貢献した事務事業、課題が残った事務事業)
① 交流・体験活動の推進	・放課後子ども教室推進事業や学校支援地域本部事業により、子どもと地域の関わりあいが増えてきている。これにより、地域住民の意識も変わりつつあると考えられる。・青少年海外視察等派遣事業では、清道郡との相互交流により、たくましく生きる子ども達の育成に役立った(中学生9名参加)。
② 相談支援体制の充実	・雲南市教育相談センター(愛称:ふあーすと)で、相談支援を行った。
③ 家庭の教育力向上	・親学講座の開催や「うんなん家庭の日」(第3日曜日)に取り組んだ。 ・「お弁当の日」を全小中学校で取り組んだ。
④ 地域の体制強化	・青少年育成協議会補助事業により、各関係機関が連携、協力して青少年健全育成に取り組んだ。 ・学校支援地域本部事業により、地域と子どもの関わりが増え、地域住民の意識も変わりつつある。 ・地域自主組織による振る舞い向上活動や子どもの見守り、通学合宿等が開催され地域の体制が強化された。
⑤	

6. 今後の課題と次年度の方針(案)

区分	今後の課題	次年度の方針(案)
施策	○市民総参加による青少年健全育成に取り組み、少年非行の未然防止に努めるとともに、犯罪等から守る必要がある。	○引き続き、市民総参加による青少年健全育成に取り組み、少年非行の未然防止に努めるとともに、犯罪等から守る。
基本事業	① 交流・体験活動の推進	○地域自主組織、コーディネーター等により、ふるさと学習、体験活動を実施していく。 ○青少年等海外派遣、相互交流により、異文化を感じ、たくましく生きる子ども達を育成していく。
	② 相談支援体制の充実	○不登校対応プログラムを実施していく。 ○雲南市教育相談センターでの相談体制を充実させていく。 ○地域(民生児童委員・主任児童委員)との連携による相談・支援体制を充実していく。
	③ 家庭の教育力向上	○親学プログラムをさらに充実していく必要がある。 ○子どもに正しい生活習慣を身につけさせる必要がある。 ○一家団欒の時間を確保していく必要がある。
	④ 地域の体制強化	○子どもを育む地域力をさらに醸成していく必要がある。 ○通学合宿やふるさと教育など、地域と学校が連携した活動を実施していけるよう推進していく。 ○情報を共有し、関係者間の連携をさらに深めていく。
	⑤	